

【09.3期中間決算説明資料】(要約版)

金融危機の影響を受けつつも 主力製品の市場環境は引き続き堅調

— 需要動向を注視しメリハリのある経営を推進—

株式会社日本製鋼所
代表取締役社長 永田昌久

2008年11月20日

ホームページURL: <http://www.jsw.co.jp>

お問い合わせ先: 経営企画室広報グループ

TEL: 03-5745-2012 FAX: 03-5745-2021

※ 本資料では09.3期第2四半期累計を『中間』と表現しております。

事業部門の構成と当社製品群



第1部 09.3期中間決算及び通期予想

(1)09.3期中間決算及び通期予想

営業利益・経常利益とも過去最高となる見込み。

1. 連結損益の状況

	08.3中間 実績 (A)	09.3中間 当初計画	09.3中間 実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	08.3 実績 (C)	09.3通期 当初計画	09.3通期 予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
売上高	1,103	1,100	1,095	99	2,208	2,380	2,380	106
連単倍率	1.17倍	1.16倍	1.16倍	—	1.17倍	1.15倍	1.16倍	—
営業利益 (率)	167 15.1%	153 13.9%	174 15.9%	104 —	324 14.7%	333 14.0%	358 15.0%	110 —
経常利益	160	148	174	109	308	320	350	114
当期純利益	95	82	97	102	175	177	195	111
一株当たり 当期純利益	25.72円	22.09円	26.16円	102	47.10円	47.68円	52.53円	112

(単位:億円)

2. 単体損益の状況

	08.3中間 実績 (A)	09.3中間 当初計画	09.3中間 実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	08.3 実績 (C)	09.3通期 当初計画	09.3通期 予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
売上高	944	950	947	100	1,893	2,070	2,060	108
営業利益 (率)	152 16.1%	141 14.8%	165 17.4%	109 —	297 15.7%	305 14.7%	333 16.2%	112 —
経常利益	149	140	166	111	283	298	330	117
当期純利益	86	80	94	109	158	167	185	117
一株当たり 当期純利益	23.29円	21.55円	25.38円	109	42.77円	44.98円	49.84円	117
一株当たり 配当金	4.5円	6.0円	6.0円	1.5円	12.0円	12.0円	12.0円	0.0円

(単位:億円)

(2)セグメント別連結売上高・営業利益の状況

(単位:億円)

		08.3 中間実績 (A)	09.3 中間計画	09.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	08.3 通期実績 (C)	09.3 当初計画	09.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品	売上高	470	485	496	106	926	1,020	1,090	118
	営業利益	127	120	140	110	251	256	288	115
機械製品	売上高	624	605	590	95	1,261	1,340	1,270	101
	営業利益	65	62	62	95	132	137	130	98
地域開発	売上高	9	10	9	100	20	20	20	100
	営業利益	3	4	4	133	6	7	7	117
消去又は配分不能費用		△ 28	△ 33	△ 32	114	△ 66	△ 67	△ 67	102
合計	売上高	1,103	1,100	1,095	99	2,208	2,380	2,380	108
	営業利益	167	153	174	104	324	333	358	110

上期のレビュー

- 鉄鋼製品関連事業では、売上高は総じて好調に推移し、前年同期比26億円増の496億円。営業利益は前年同期比10%増益。
- 機械製品関連事業では、売上高は樹脂製造・加工機械が堅調に推移したものの、圧縮機並びに風力発電機器が減少し、前年同期比34億円減の590億円。営業利益は前年同期比微減。

下期のポイントと通期の見通し

- 鉄鋼製品関連事業では、売上高は総じて好調に推移し、通期では前年同期比164億円増の1,090億円を予想。営業利益は前年同期比15%増益を予想。
- 機械製品関連事業では、売上高は、プラスチック射出成形機では経済環境の悪化による売上減少が鮮明になり、風力発電機器ではプロジェクトの遅れがあるものの、樹脂製造・加工機械の売上が好調に推移し、前年同期比微増の1,270億円を予想。営業利益は前年同期比微減を予想。

(3) 連結セグメント別の業績(売上高・営業利益)

電力・原子力製品は順調に増収。

原材料価格の上昇・償却費の増加の影響はあるが、売上・生産の増加、原価低減・代価は正により15%増益の予想。

		08.3 中間実績 (A)	09.3 中間計画	09.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	(単位:億円)			
		08.3 通期実績 (C)	09.3 当初計画	09.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)				
鉄鋼製品関連	鋳鍛鋼部門	217	220	240	111	411	465	480	117
	鋼板・鉄構部門	220	250	232	105	463	510	567	122
	単体部門計	437	470	472	108	874	975	1,047	120
	連結会社他	33	15	24	73	52	45	43	83
	連結売上高	470	485	496	106	926	1,020	1,090	118
営業利益		127	120	140	110	251	256	288	115

		08.3 中間実績 (A)	09.3 中間計画	09.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	(単位:億円)				
		08.3 通期実績 (C)	09.3 当初計画	09.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)					
機械製品関連	樹脂機械部門	344	345	353	103	648	705	680	105	
	その他機械部門	154	127	113	73	355	375	318	90	
	単体部門計	498	472	466	94	1,003	1,080	998	100	
	連結会社他	(IT関連)	48	50	43	90	105	96	110	105
		(その他)	78	83	81	104	153	164	162	106
	連結売上高	624	605	590	95	1,261	1,340	1,270	101	
営業利益		65	62	62	95	132	137	130	98	

成形機は売上の減少・部品コストの上昇により悪化するも、樹脂製造・加工機械の改善により前期並みの利益を確保。

(4)セグメント別受注高

(単位:億円)

	08.3 中間実績 (A)	09.3 中間計画	09.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	08.3 通期実績 (C)	09.3 当初計画	09.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/(C)
鉄鋼製品関連事業	714	640	671	94	1,180	1,145	1,197	101
機械製品関連事業	634	640	669	106	1,444	1,490	1,485	103
地域開発事業	9	9	9	100	20	15	20	100
合計	1,358	1,289	1,349	99	2,645	2,650	2,702	102

(5) 連結セグメント別の業績(受注高)

天然ガス田パイプライン向けクラッド鋼管は、プロジェクトが端境期。

円高の影響はあるものの、
ほぼ当初計画並みを予想。

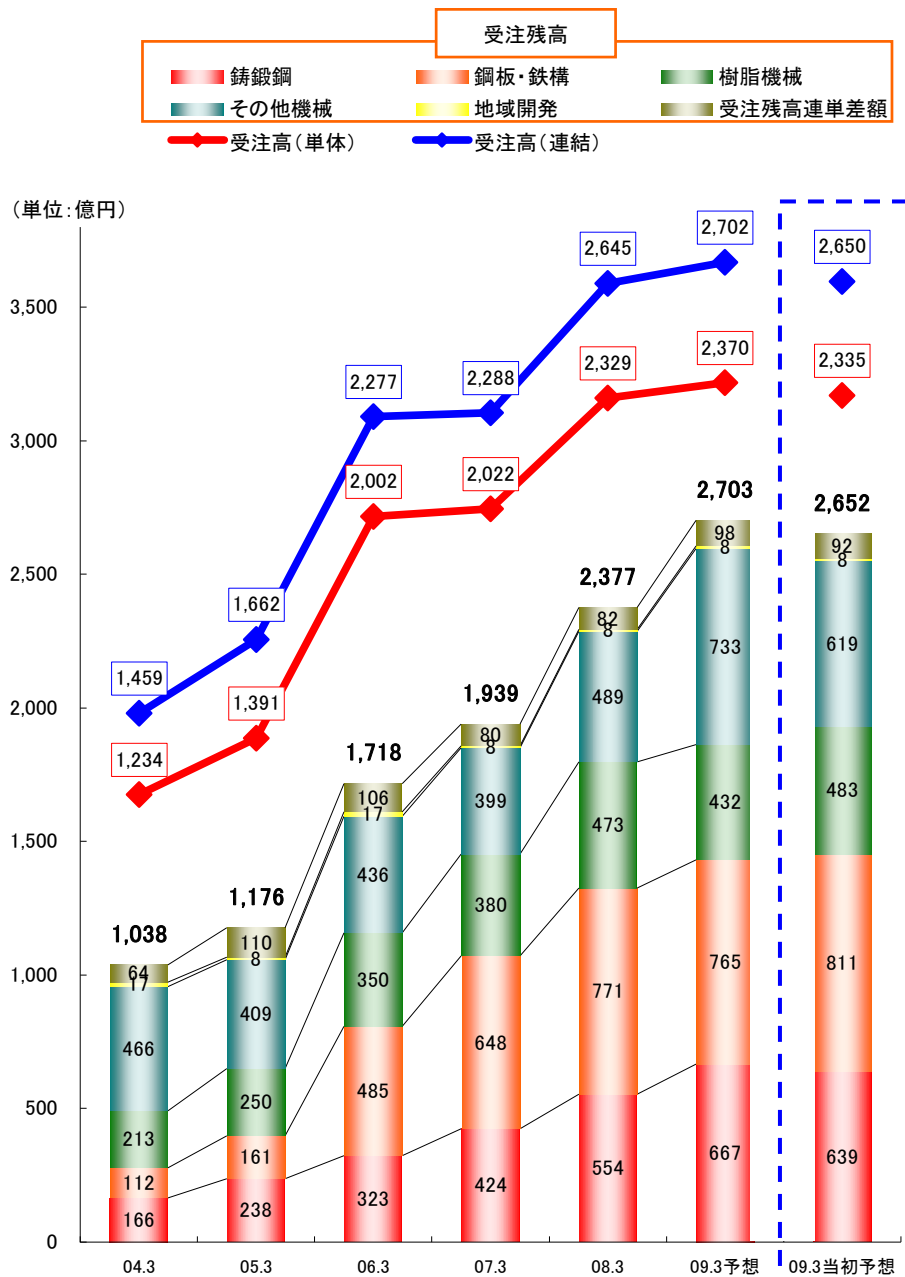
		08.3 中間実績 (A)	09.3 中間計画	09.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	(単位:億円)			
		08.3 通期実績 (C)	09.3 当初計画	09.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/C)				
鉄鋼製品関連	鑄鍛鋼部門	313	305	340	109	542	550	593	109
	鋼板・鉄構部門	369	310	308	83	586	550	560	96
	単体部門計	682	615	648	95	1,128	1,100	1,153	102
	連結会社他	32	25	23	72	52	45	44	85
	連結受注高	714	640	671	94	1,180	1,145	1,197	101

		08.3 中間実績 (A)	09.3 中間計画	09.3 中間実績 (B)	前年同期比 (%) (B)/(A)	(単位:億円)			
		08.3 通期実績 (C)	09.3 当初計画	09.3 通期予想 (D)	前期比 (%) (D)/C)				
機械製品関連	樹脂機械部門	404	345	329	81	741	715	640	86
	その他機械部門	97	153	197	203	444	505	562	127
	単体部門計	501	498	526	105	1,185	1,220	1,202	101
	連結会社他	133	142	143	108	259	270	283	109
	連結受注高	634	640	669	106	1,444	1,490	1,485	103

大型造粒機・フィルムシート装置等の主力製品は引き続き堅調なるも、プラスチック射出成形機市場の縮小を織り込み、前期比14%の減少を見込む。

日本の風況に適合した低メンテナンスコストの風力発電機器の投入等が寄与し、当初計画を上回る予想。

(6) 09.3期の受注高・受注残高と10.3期の傾向



09.3期の見込み

<受注残高>

- 全体：前期比326億円(14%)増加の2,703億円を見込む。
- 鋳鍛鋼：特に電力・原子力向け鉄鋼製品の受注増加により前期比113億円(20%)増加。当初計画639億円を上回る積み上がりとなる。
- 鋼板・鉄構：石油精製用圧力容器は計画通り受注増加するも、資金調達に窮した独立系石油精製業者からの注文取消が1件発生し、72億円減少。これにより受注残高は前期比微減の765億円(当初計画811億円に比し6%減少)。
- 樹脂機械：プラスチック射出成形機などは自動車・OA関連の受注減少により、前期比41億円(9%)減少(当初計画483億円に比し12%減少)。
- その他機械部門：風力発電機器の受注急増と売上のズレ等によりその他機械部門全体の受注残高が大きく増加し、前期比50%増の733億円となる(当初計画619億円より18%増加)。

10.3期の状況

- 電力・原子力関連の受注は更なる増加を予想する一方、自動車・OA関連向けを用途とするプラスチック射出成形機をはじめとする樹脂機械の一部については受注減を予想する。

(7) 設備投資(含むリース)・減価償却費・研究開発費の推移

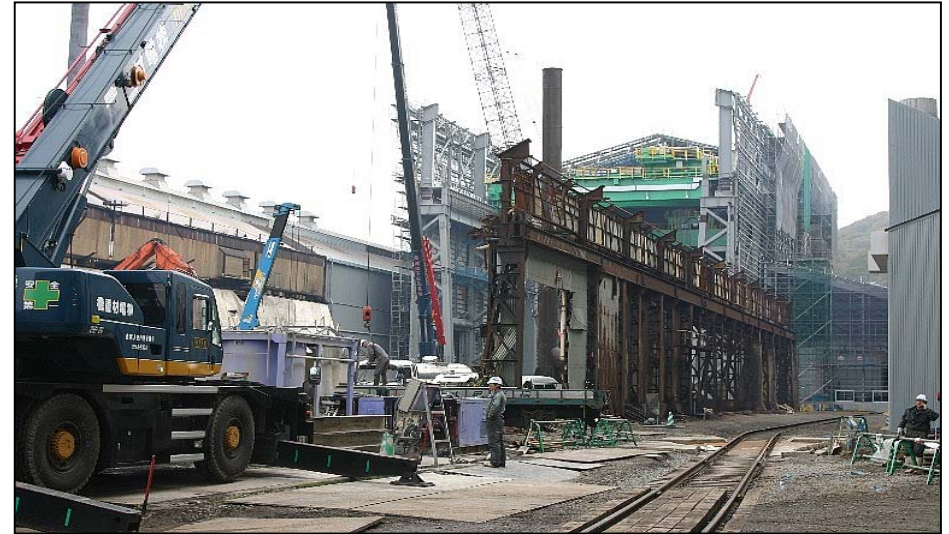
(単位:億円)

	セグメント	04.3	05.3	06.3	07.3	08.3	09.3見込	09.3 当初計画
設備投資	鉄鋼製品関連事業	38.2	26.6	32.7	73.2	119.3	347.4	338.7
	機械製品関連事業	16.5	10.9	21.3	23.4	35.1	44.6	48.1
	地域開発関連事業他	2.8	0.7	1.2	5.0	6.2	1.4	4.7
	合計	57.5	38.2	55.2	101.6	160.6	393.4	391.5
減価償却費	鉄鋼製品関連事業	16.6	17.5	20.3	25.7	58.0	61.9	59.6
	機械製品関連事業	18.0	16.8	16.2	16.6	29.9	37.6	37.4
	地域開発関連事業他	12.1	8.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6
	合計	46.7	42.8	41.1	46.9	92.5	104.1	101.6
研究開発費	鉄鋼製品関連事業	8.7	12.2	10.1	12.4	15.5	17.5	15.6
	機械製品関連事業	20.5	18.8	20.1	20.7	18.5	22.3	21.7
	合計	29.2	31.0	30.2	33.1	34.0	39.8	37.3

(8) 室蘭製作所への500億円を超える設備投資は遅滞なく進行中



鋼塊製造効率向上のため、製鋼工場建屋を延伸
(基礎工事を終え、建屋建設作業に取り掛かる)



大型プレス機増設のため、鍛錬工場を増設
(14,000tプレス機2基体制を構築)



製品加工能力増強のため、機械加工工場建屋を延伸

工程の上流から下流にかけて、
各種鉄鋼製品の素材となる鋼塊
の製造能力、及び加工能力の大
幅な増強を実施中

(9) 更なる大型設備投資の実施を検討

比較的小型な電力・原子力製品の製造工程(鍛錬・熱処理・機械加工)を統合した新工場を建設し、製造効率及び採算性を向上させる。



新工場建設を柱とした各種生産設備増強のための投資は総額300億円程度を見込む。世界の電力・原子力需要の動向を慎重に見極めながら、AREVA社をはじめとする各社の増産要請に応えていく。

(10) 連結貸借対照表及び連結キャッシュフロー計算書

連結貸借対照表

(単位:億円)			(単位:億円)		
	08.3	09.3中間		08.3	09.3中間
流動資産	1,686	1,788	流動負債	1,363	1,553
固定資産	937	1,096	固定負債	409	454
資産合計	2,624	2,884	純資産	852	877
			負債・資産合計	2,624	2,884

参考

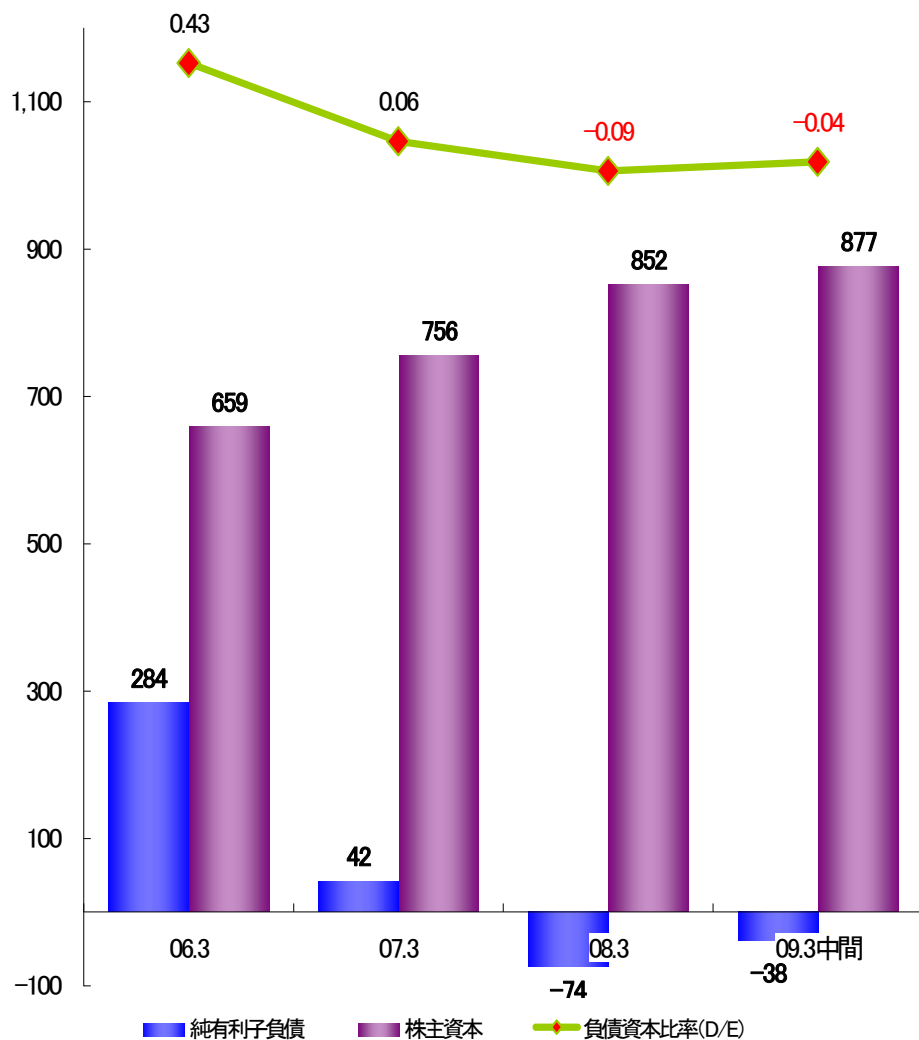
	08.3	09.3中間
自己資本比率	32.4	30.3
1株当純資産	228.9	235.7

連結キャッシュフロー計算書

(単位:億円)		
	08.3	09.3中間
営業活動 キャッシュフロー	138	91
投資活動 キャッシュフロー	△ 32	△ 89
計	106	2
財務活動 キャッシュフロー	△ 69	△ 42
現金及び現金同等物の 期末残高	312	320

(11) 財務体質の状況(純有利子負債等の推移)(連結)

(単位: 億円)



- 09.3中間期末の有利子負債残高は、前期末比4億円減の282億円となった。
- 純資産は利益の増加により前期末比25億円増加し、877億円となる。
- 今後の設備投資に充当するため、手元現預金は高水準を維持している。

	期末	06.3	07.3	08.3	09.3中間
キャッシュフロー 対有利子負債比率(倍)		8.0	0.9	0.7	-
インタレストカバレッジレシオ (倍)		7.1	47.8	92.0	-
有利子負債EBITDA倍率(倍)		2.8	1.1	0.7	-

有利子負債(A)	469	320	286	282
現預金残高(B)	185	275	360	320
純有利子負債 (A)-(B)	284	46	△ 74	△ 38

第2部 各事業部門の業況・見通し

(1) 鑄鍛鋼部門: 電力・原子力の売上・利益は引き続き伸長

中計での取り組み

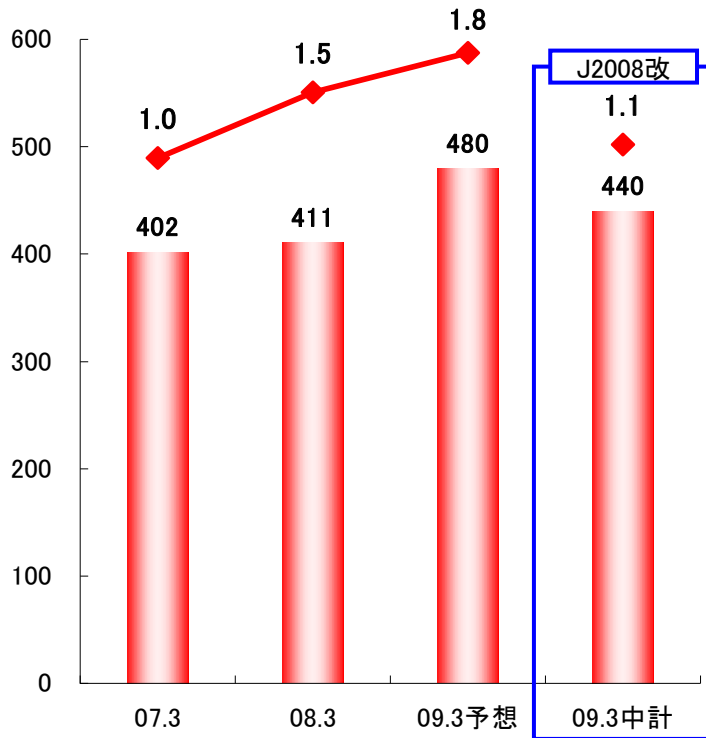
- ① 火力・原子力発電用部材等のニッチトップ・オンリーワン技術戦略の展開によるシェア拡大
- ② 需要環境に合わせた生産能力向上・効率化のための設備投資継続実施

09.3上期の状況

- 電力・原子力の豊富な受注残高に支えられ、売上は前年同期比11%の増加。
- 電力・原子力の需要は依然旺盛であり、受注は前年同期比9%の増加。特に当社の高効率発電用大型部品(USCローター※等)の需要は強く、期初より受注残高を積み増す。

※ USC(Ultra Super Critical)ローター：高効率でCO₂排出量の低減に資する超々臨界圧発電に使用されるローターで、蒸気温度600℃超の高温に耐える。

(単位: 億円)



■ 売上計 ◆ 営業利益係数 (07.3期を1とする)

09.3期の見通し

- 積み上がる受注残高・引き続き好調な受注により、売上は前期比17%の増加。
- 原材料価格の上昇・償却費の増加等の影響を受けるが、売上・生産の増加、原価低減・代価是正活動の推進により、増益基調を維持。
- 受注は前期比9%の増加、今期、受注残高を113億円積み増す。世界的金融危機に起因した注文取消・プロジェクト延期の動きは発生していない。

10.3期の見通し

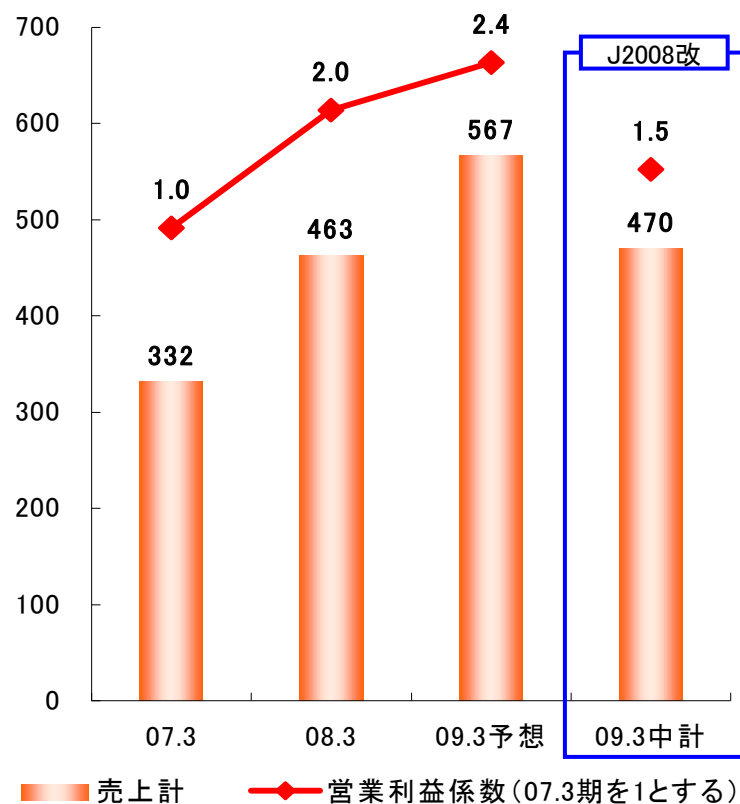
- 09.3期売上の1.4倍、667億円の受注残高を抱え、年度をスタート。
- 電力・原子力ビジネスは引き続き好調。特に原子力では、米国・中国に加え、耐震設計の承認を得た日本国内の新規受注も期待。
- 2016年までの原子力部材供給に関するAREVA(仏)との長期契約締結等により、先行きに対する確からしさが増す。

(2) 鋼板・鉄構部門：長期的なエネルギー需要増大を背景に、増収増益を持続

中計での取り組み

- ① 需要動向に即した製造ライン・プロセスの構築
- ② 設備投資の継続実施による生産能力向上・効率化の推進

(単位：億円)



09.3上期の状況

- 圧力容器類で一部売上のずれがあったものの、比較的工期の短いクラッド鋼板の受注が堅調に推移し、売上は前年同期比5%の増加。
- 資金調達に窮した独立系石油精製業者からの注文取消が1件発生したが、他の手持工事は国営・米国メジャー・韓国財閥系企業等からの注文であり、問題となる動きはなく、生産への影響はない。

09.3期の見通し

- 売上はほぼ手持工事で充足されており、前期比22%の増加。
- 原材料・購入部材の価格上昇等の影響を受けるが、売上・生産の増加、原価低減・代価是正活動の推進により、増益基調を維持。
- 原油価格下落に伴うエネルギー開発プロジェクトの見直し、ユーロ安による欧州競合企業の価格競争力向上等が懸念されるも、今のところ業績への影響はでていない。

10.3期の見通し

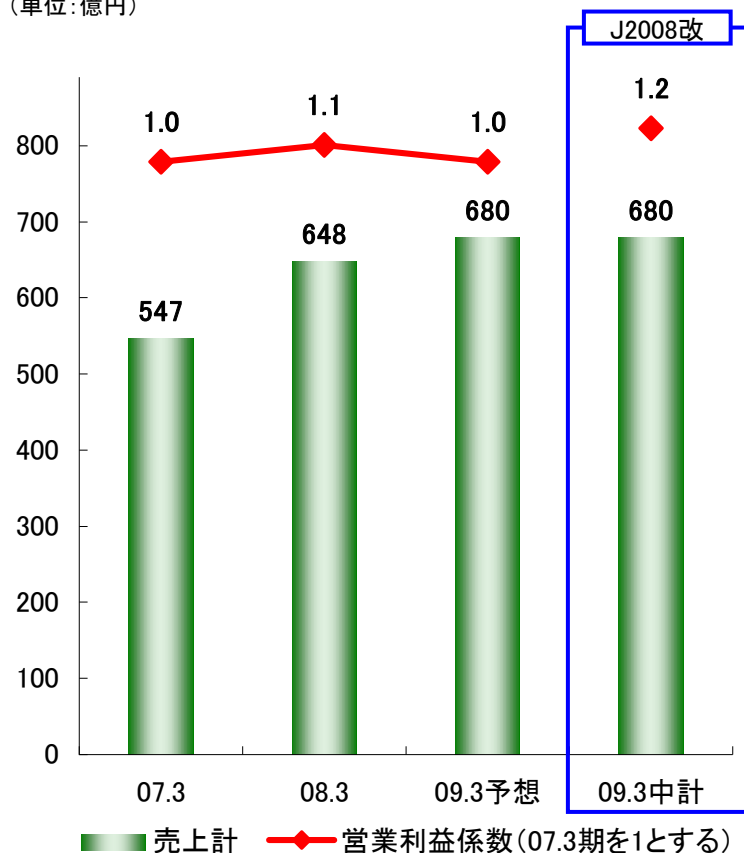
- 09.3期売上の1.3倍、765億円の受注残高を抱え、年度をスタート。
- 北米・南米・韓国向け受注済み案件が完成出荷される予定であり、09.3期売上を大幅に上まわる見込み。
- 原油需要の長期的伸びを背景に、重質油開発は引き続き推進される見込みであり、圧力容器類の市場環境は堅調。

(3) 樹脂機械部門：成形機の悪化を堅調な樹脂製造・加工機械でカバー

中計での取り組み

- ① 差別化技術の強化とJSWブランドの浸透
- ② アライアンスによる新規事業・新製品育成
- ③ 光学液晶フィルム分野の強化
- ④ 小型射出成形機市場の攻略

(単位：億円)



09.3上期の状況

樹脂製造・加工機械

- 豊富な受注残高に支えられ、売上は前年同期比9%の増加。
- ロシア向け造粒機・海外向け中大型二軸押出機の受注が堅調に推移し、受注残高は期初並みを維持。

成形機

- 自動車および家電・OA・通信分野における設備投資意欲は冷え込んでいるが、中大型機の受注残高が下支えとなり、売上は前年同期比3%の減少にとどまる。

09.3期の見通し

樹脂製造・加工機械

- 豊富な受注残高・堅調な受注により、売上は前期比26%の増加。
- 購入部品の価格上昇の影響を受けるが、売上の増加および原価低減活動の推進により増益を確保、成形機の悪化をカバー。

成形機

- 需要後退の影響は時間の経過とともに広がり、売上は前期比13%の減少。
- 原価低減活動の徹底、(株)名機製作所との業務提携による新規需要の発掘等、攻守両面にわたる取り組みを推進。

10.3期の見通し

樹脂製造・加工機械

- 09.3期並の受注残高をもって、年度をスタート。
- 造粒機の受注は、中国・中東から中国・ロシア・インド・南米へ地理的広がりを示しつつ、堅調に推移。フィルムシート装置も、安定的な一般包装材用に加え、光学系フィルム用の回復が期待できる。

成形機

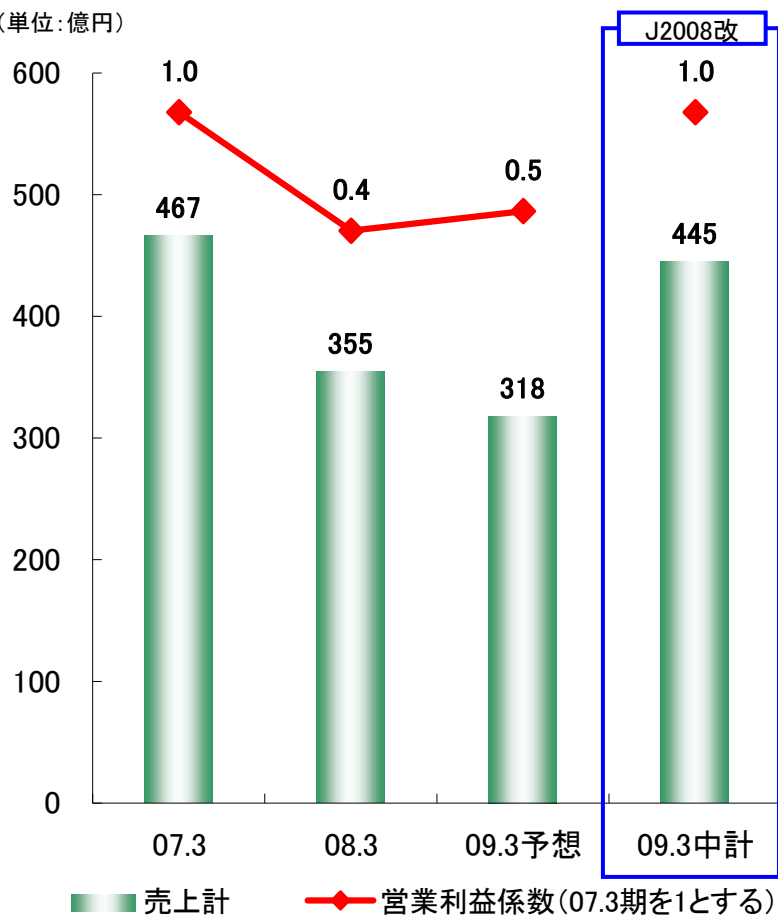
- 需要低迷の長期化が懸念されるなか、電動大型機に強い当社の強みを生かし、薄肉軽量材・複合材・高意匠材等の新しいニーズへの対応を推進。

(4) その他機械部門：新規事業・IT関連機器の10.3期業績への貢献を期待

中計での取り組み

- ①新製品・新事業の早期投入と戦力化
- ②戦略的アライアンスによる事業拡大
- ③応用製品・周辺製品開発による市場拡大

(単位：億円)



09.3上期の状況

- 売上は前年同期比27%の減少。一般産機他・圧縮機の受注遅れ、ならびに新規事業である風力発電機器の売上ずれが影響。
- 圧縮機は中国・中東向けの引合がある。風力発電機器は、当社J82風車が国内風力発電の補助金事業において選好され、受注は急増。

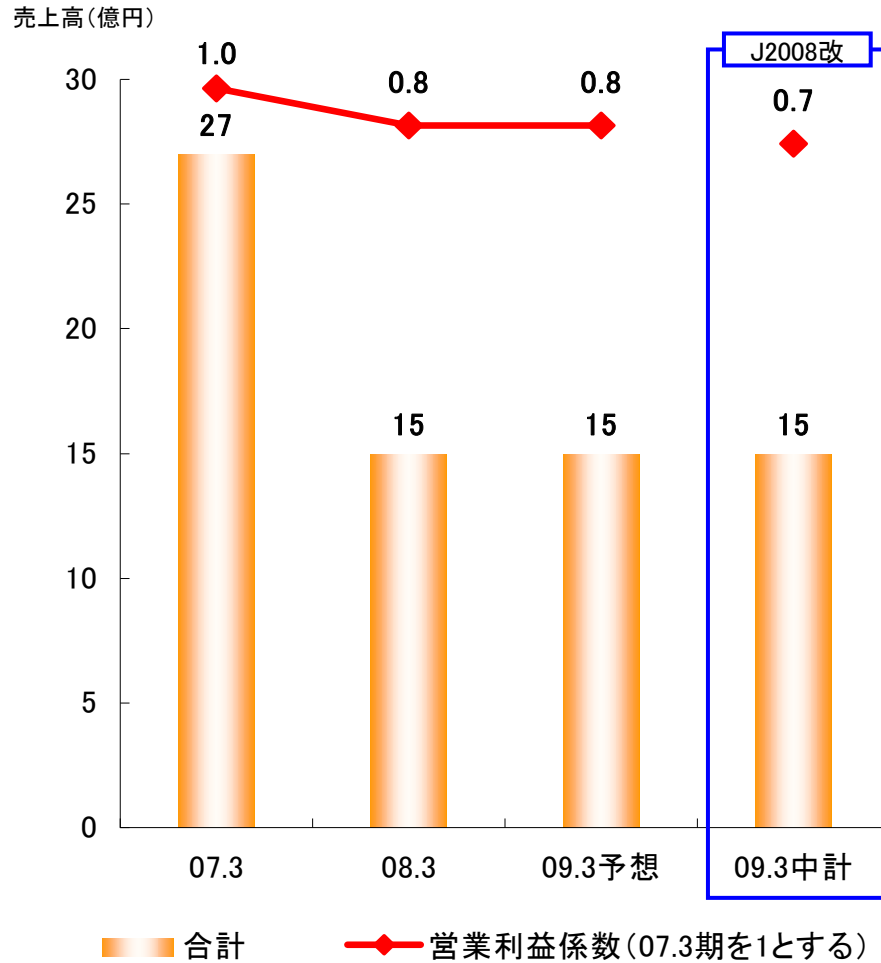
09.3期の見通し

- 売上は前期比10%の減少となるも、IT関連機器の売上増等が寄与し、08.3期並みの利益を確保。
- IT関連機器・レーザアニール装置では韓国向けLCD・有機EL用大型案件が、同・マグネシウム射出機では中国向けノートPC用案件が、それぞれ期待できる。
- 風力発電機器は、建築確認の厳格化等の影響によりプロジェクトのスケジュール変更があり、売上の大半が10.3期へずれる。そのため現中期経営計画(J2008改)の目標に比し大幅な売上減少となる反面、受注残高が200億円弱積み上がる。

10.3期の見通し

- 風力発電機器・防衛関連機器を主体に733億円の受注残高を抱え、年度をスタート。11.3期以降のものもあるが、これらが売上に寄与するため、大幅な増収が期待できる。
- レーザアニール装置では高精細な有機EL用固体レーザアニール装置の開発を、マグネシウム射出成形機では自動車部品用大型機の開発をすすめており、業績への貢献を期待。

(5) 地域開発事業部門: 社有資産の有効活用を推進



○既存賃貸事業の運営・管理業務のレベルアップ、他社との協業による営業力強化

- ①安定的収益の確保
- ②キャッシュフローの創出



商業施設(北海道・室蘭弥生ショッピングセンター)

2009年3月期連結決算参考資料

(単位:百万円)

	04.3	05.3	06.3	07.3	08.3	09.3中間	09.3予想
経営成績							
売上高	136,309	158,274	173,353	207,138	220,851	109,598	238,000
営業利益	6,394	7,721	12,876	24,678	32,475	17,471	35,800
経常利益	4,558	6,210	11,770	23,459	30,864	17,443	35,000
当期純利益	2,000	3,284	6,586	12,515	17,484	9,711	19,500
一株当たり当期純利益	5.39	8.70	17.57	33.71	47.10	26.16	52.53
株主資本当期純利益率	3.8	5.9	10.7	17.7	21.7	-	21.6
売上高経常利益率	3.3	3.9	6.8	11.3	14.0	15.9	14.7
財政状態							
株主資本	54,540	57,461	65,853	75,621	85,231	87,706	95,200
株主資本比率	30.3	31.1	33.5	32.4	32.4	30.3	31.9
一株当たり株主資本	146.86	154.59	177.19	203.09	228.93	235.65	256.40
キャッシュフローの状況							
営業活動によるキャッシュフロー	8,232	7,291	5,854	35,630	42,040	9,096	11,700
投資活動によるキャッシュフロー	△2,791	13,611	△6,534	△9,599	△24,765	△8,951	△23,800
財務活動によるキャッシュフロー	△5,959	△11,918	△5,307	△16,750	△8,571	△4,257	0
現金及び現金同等物期末残高	15,142	24,111	18,179	27,472	36,133	32,074	24,033



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
また、本資料に記載された将来予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素が含まれております。
当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても、一切責任を負いかねます。